

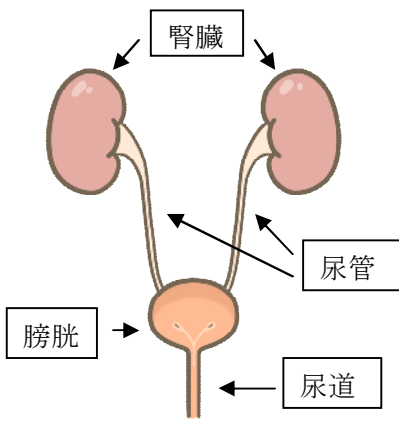
## ◇ 尿路感染症 ◇

全身をまわった血液は、左右の腎臓でろ過され、不要物は尿として排泄されます。

尿は腎臓からそれぞれの尿管を通り膀胱に貯められ、尿道から体外に出されます。

腎臓から尿道までを尿路といい、そのいずれかの場所に病原体が感染した場合が、「尿路感染症」です。

尿路も尿も基本、無菌状態です。血液からの感染も時にありますが、ほとんどの尿路感染症は尿道から逆行性に細菌が感染して生じます。



## ◇ 膀胱炎

最も頻度の高い尿路感染症です。排尿後痛、頻尿、残尿感、などの症状がみられます。熱は出ません。血尿がみられることもあります。

ウイルスで起こることもあります。ウイルスで起こることもありますが、ほとんどの原因は細菌で、その多くが大腸菌によるものです。

女性は尿道が短いため、患者さんは女性に多くみられます。

赤ちゃんから高齢者まであります。尿は無菌ですが、便には大腸菌がたくさんいます。排便後おしりを拭く時は、前から後ろの方へ拭くようにしましょう。

トイレを我慢しすぎる、体を冷やすす、締め付けた下着の着用、性交、なども膀胱炎の誘因になります。夜おやすみ前は必ず排尿をしてから就寝しましょう。

いつもの膀胱炎？症状が長引く？と思っていたら、間質性膀胱炎、膀胱癌等が見つかることもあります。

たかが膀胱炎、とは思わずに、気になる症状がある時は医療機関で尿の検査を受けましょう。

## ◇ 腎盂腎炎

細菌が膀胱から上の尿管、腎臓の方にまで感染してしまった状態です。

悪寒、発熱、背部痛、嘔吐などの症状があり、膀胱炎と違い、重症感があります。

こちらも成人の罹患者は女性の方が多くですが、赤ちゃんでは男の子でもよくみられます。

原因菌は大腸菌が多く検出されます。

小児では症状が分かりづらく、「症状が熱だけ」ということがよくあります。

病因が分からないまま抗生物質を投与されると、腎盂腎炎を見逃してしまうことがあります。

知らぬ間に腎盂腎炎を繰り返し、気づいたら片方の腎臓が荒廃していたという事態も起こり得ます。

風邪症状・胃腸症状もないのに熱だけが続くという時は、尿の検査をしておく必要があります。

膀胱炎では数日間の、腎盂腎炎では1〜2週間の、抗生物質の投与による治療が行われます。

尿路感染症は風邪のように何回も繰り返すということはありません。特に腎盂腎炎を繰り返し起こす場合は注意が必要です。

尿路に結石がある、水腎症（腎盂・尿管が異常に太くなっている）がある、排尿時に膀胱から尿管に尿の逆流がみられる、などの異常が隠れていることがあるからです。

尿路感染症を繰り返し起こしてしまう時は尿路の詳しい検査が必要となります。

### 尿の採り方

外陰部をきれいにし、中間尿を採るようにしましょう。

（尿の始めと終わりには皮膚の汚れ・菌が入りやすいので）

